

# 小児救急について



西条市医師会理事  
高橋 貢  
高橋 貢  
高橋 貢

『あれ、Aちゃんがおかしい。さつきお風呂に入るまではミルクもよく飲んでいたし機嫌も良かったのに』

体温を計ると39度もありました。若いお母さんはどうして良いかわからず、おばあちゃんに相談しました。

『そんなに熱があったら頭がどうにかなつたらいかんで、すぐに病院に連れて行きなさい』とのことでした。現在夜の9時半です。

かかりつけの小児科に電話をしましたが、留守電になっていました。本日の当直は午後10時まではB医院でした。

ここは内科で小児科ではありません。午後10時からC病院が当番でした。ここは小児科がある病院でしたので、10時まで待ってC病院にかか

りました。今日のC病院の当直医は小児科ではありませんでした。その時、救急車がきて、ずいぶん診察までに時間がかかりましたが、「かぜでしょう」との診断のもとに座薬をもらって帰りました。

しかし、小児科医に診てもらえなかつた不満は少し残りました。

これは勿論もちろんフィクションですが、ここにはわが国(西条市)がかかえる小児医療の問題点が集約されています。

まず、1番目の問題点は医療側にあります。このお母さんは小児科医に診察してもらいたかつたのです。患者さん側からみれば、いつでも、どこでも、無料(安く)で、よりの質の高い医療(今回は小児科医による診察)を求めることは、ある意味では当然だと思います。しかし、小児科医の数は少なく、正規の時間の診療だけでもかなり疲弊している現状があり、時間外のすべての患者さんに対応できる

状況ではありません。

2番目の問題点は患者さん側のものです。わが国の保護者は急病に対する過度の不安、特に発熱恐怖が強く、とにかく発熱=脳の障害という誤った認識が多くの保護者の間に存在し、発熱=一刻も早い救急受診(時間外、夜間、休日)につながっていると思われます。

核家族化のために若いお母さんの看護能力が低くなつたという見方もありますが、お

ばあちゃん自身も若く、1人か2人しか子育てをしていない方が多く、孫というかわいさも手伝い過剰な反応をしている場合も多いと思われま

す。受診のタイミングを考える上で参考になるものに小児救急電話相談事業というものがあります。「#8000」をプッシュすることにより、相談窓口に自動転送されてアド

バイスが受けられるシステムです。各県で実施状況は異なります。現在、愛媛県では土・日曜日、祝日の19時から23時までの対応になっています。

また、『こどもの救急』おあさんのための救急&予防サイト (<http://www.kodomo->

page)も参考になると思

います。しかし、一番大切なことは日頃から子どもさんの様子を十分に観察しておき、今回の熱は今までとは違う、呼吸もおかしいし、絶対に何かありそうとか、今回の吐き方はいつもと違う、おなかもすぐく痛そうだし、顔色も悪いなどの症状があれば、自信と信念をもって時間外受診をしてください。ぜひ賢いお母さんになつてください。

小児救急の本質は、①早期治療を行い重症化させずに軽症で終わらせる②多くの軽症疾患に隠れている緊急・重症疾患を見逃さない③家族の不安など社会医学的要素での受診行動が主体で、純医学的な医療側の考えで線引きできないことなどです。

医学的に軽症でも保護者が必要と思えばそれは救急なのです。しかし、一方でこのコンビニ的受診が医師をさらに疲弊させているということも事実です。

医師を限りある医療資源と考へ、上手にそして大事に使っていただけるようお願いいたします。

## 「食生活プランニング講座」を受講してみませんか？

食事バランスガイドで自分に見合った食事の量を知っていただき、あなた自身の食生活をプランニング(計画)します。

バランスのよい食事をとるために食事バランスガイドを活用し、食生活のポイントをチェックしてみましょう。

受講時間 各13時30分~15時

### ▼食生活プランニング講座 9月~11月の日程

場所・申込先	応用編	基礎編	応用編
中央保健センター	9月19日(金)	10月24日(金)	11月21日(金)
東予保健センター	9月12日(金)	10月10日(金)	11月14日(金)
丹原保健センター	9月26日(金)	10月31日(金)	11月28日(金)
小松保健センター	9月5日(金)	10月3日(金)	11月7日(金)